

が当面の問題となつている。塗料の色調を安定させる点については新しい塗料物質を導入しなければならぬであろう。

- 2) 合板の音響に関する諸性質に就ての知見を拓くために更に研究の必要が望まれる。これによつてラジオ、テレビジョン、ハイファイ、建築等の分野に合板及びその製品を使用出来るようになって行くであろう。これにはラジオやテレビの研究所の協力が望ましい。又、建築規定につき更に多くの研究をつんで、合板がビルの建設等にもつと使用されるようにしなければならない。
- 3) 合板の曲げ性質につき更に事実を則したデータの得られることが望ましい。
- 4) 合板の接着力の性能テストに関連した品質管理を発展させること。このためには合板接着力のテストを好適なものとするよう改善に努力を払う必要がある（ドン・ブルース氏発言）

5) 米松合板のひどい表面割れに対してはよく使用者側から苦情を申し込まれる。この問題に対しては合板販売業者が簡単に行えるようなテスト方法を案出し「使用者の手に渡つて何んかに作られてしまつてから表面割れを生じてくるようなものは初めから販売しないようにすることが出来ないものだろう」という意見が提起されているのには同感する。

6) 潤葉樹合板に就ては本当に平らで薄い合板を作るよう業界の努力することが望ましい。このため合板の新しい構成方法が探究されなければならないであろう。

以上が米国林産物研究協会の単合板部門のパネルディスプレイの概要である。我国と同じような問題で苦勞している面も見受られるのは共感を覚えさせられることであろう。

目 立 養 成 所 通 信

(完)

北 沢 暢 夫

六月十八日、小林次長、片岡課長等のお出迎いを戴き無事旭川駅に下りたつたときは、何とも名状し難い感激で胸が一ぱいになって来た。途中落伍もせず全期間どうやらやりとおせたかと思うとほつとした安ど感と、さあこれからこそ大いにがん張らなければならないぞと云うような複雑な感情とが重り会って、

昨年十一月からこの六月までの約七ヶ月間、今まで殆んど手にしたことのない十字文字ハンマー片手に、時には鋸を回転中にひっかけ頭の血液が全部足の方に下つてしまつたと思われるような事に出逢つたり、北海道と云うところは到るところ熊が出没し住んでいる大部の人間が野バン的で従つて製材技術の程度も問題にならない程低いのだらうと思われたり、或は又夏だけ仕事をし、冬の寒い季節にはストーブを囲んで何をすることもなしにくらしているかのように想像されたり

免に角北海道の状況を余りにも知らなすぎる人々と共に血と汗とグラインダーの粉で真黒になつた作業服をまとつて、ひたすら目立技術を少しでも多く習得したい一念に燃えて努力して来た。

さて入所以来修了式までの状況は逐次報告、その都度月報に掲載されて来たため今又述べることは重複とも考えられるので、全期間を通じての要約丈けを簡単に報告し、数回に亘つた目立通信の最終回としたい。

製材実習……全期間を通じて毎日二時間宛ハンドル操作、先取り、腹押、結束等

帯鋸目立……前期三ヶ月間は鋸の操作から接合、水平仕上げ、腰入れ、アサリ出し（打出し、撥出し共）自動仕上げ等

後期三ヶ月間は22G～25Gを対象とした新鋸仕上げ作業

丸鋸目立…… 32~42吋の中型丸鋸については毎月二
~三日間宛実習

小型丸鋸…… 10~14吋の製函用丸鋸について、養成
所とは別に清水市村松製材所に於て十日間実習

特別講義…… 鋸の特性、切削理論

製材機及び送材車の構造

鋸の歯型その他

次に静岡地方、主として養成所と北海道地方との目
立方法で異つていると思われる点について若干つけ加

えると、静岡地方では、

1. 帯鋸は全て自動仕上げである。
2. テンションゲージは上下両面付を用いている。
3. 目立機の据付を慎重にし、動揺しないようにしている。
4. グラインダーは概ね粒度70位
5. 目立士の稼働率が一般に高い。
6. 目立技術に対する研究心が旺盛である。

試作歯型図

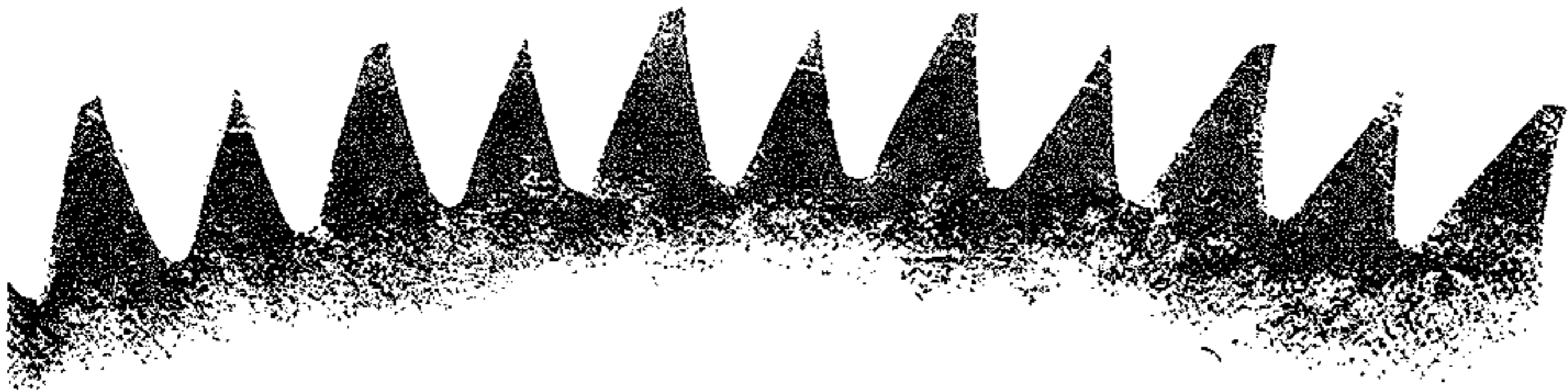
25吋：スギ挽用



12吋、18G小型丸鋸（歯数90）



18吋、16G横切小丸（歯数90）



未だ入門した許りで、目立技術の何着たるやを判ずることすら困難な現状ではあるが、普通工場に入って初めから習得するには五年或は十年と云う長年月を要するとされているこの部門で、僅か六ヶ月間の勉強で凡その基礎をおぼえ、以後真剣にやれば二、三年で充分前者程度にはなれるといわれている。「静岡県目立技術者養成所」に入所がかない、その教務内容と空気だけでも味い得たことは、今後の勉強、研究にまこと

に有意義であつたように思われる。

尚此の度の遊学に際し、種々御便宜、御援助を賜つた農林省林業試験場齋藤部長、林野庁原普及課長並に杉下技官、そして入所以来お世話下つた静岡県林務部長はじめ養成所の各位に深甚な感謝の詞を申し上げ、更に今後一層の御指導御鞭撻あらんことを切に希う次第である。

（指導所研究部）

目立養成所通信（完）

北澤 暢 夫

六月十八日、小林次長、片岡課長等のお出迎いを戴き無事旭川駅に下りたったときは、何とも名状し難い感激で胸が一ぱいになって来た。途中落伍もせず全期間どうやらやりとおせたかと思うとほっとした安堵感と、さあこれからこそ大いにがん張らなければならぬぞと云うような複雑な感情とが重なり合って、

昨年十一月からこの六月までの約七ヶ月間、今まで殆ど手にしたことのない十文字ハンマー片手に、時には鋸を回転中にひっかけ頭の血液が全部足の方に下がってしまったと思われるような事に出逢ったり、北海道と云うところは到るところ熊が出没し住んでいる大部の人間が野バンので従って製材技術の程度も問題にならない程低いのだろうと思われたり、或は又夏だけ仕事をし、冬の寒い季節にはストーブを囲んで何をすることもなしにくらしているかのように想像されたり兎に角北海道の状況を余りにも知らなすぎる人々と共に血と汗とグラインダーの粉で真黒になった作業服をまとって、ひたすら目立技術を少しでも多く習得したい一念に燃えて努力して来た。

さて入所以来修了式までの状況は逐次報告、その都度月報に掲載されて来たため今又述べることは重複とも考えられるので、全期間を通じての要約だけを簡単に報告し、数回に亘った目立通信の最終回としたい。

製材実習.....全期間を通じて毎日二時間宛ハンドル操作、先取り、腹押、結束等

帯鋸目立.....前期三ヶ月間は鋸の操作から接合、水平仕上げ、腰入れ、アサリ出し（打出し、撥出し共）自動仕上げ等

後期三ヶ月は 22G ~ 25G を対象とした新鋸仕上げ作業

丸鋸目立.....32～42 インチの中型丸鋸については毎月二～三日間宛実習
小型丸鋸.....10～14 インチの製函用丸鋸について、養成所とは別に清水市村松製作所に
於いて十日間実習
特別講義.....鋸の特性、切削理論
製材機及び送材車の構造
鋸の歯型その他

次に静岡地方、主として養成所と北海道地方との目立方法で異なっていると思われる点
について若干つけ加えると、静岡地方では、

1. 帯鋸は全て自動仕上げである。
2. テンションゲージは上下両面付を用いている。
3. 目立の据付を慎重にし、動揺しないようにしている。
4. グラインダーは概ね粒度 70 位
5. 目立士の稼働率が一般に高い。
6. 目立技術に対する研究心が旺盛である。

試作歯型図 25G：スギ挽用

12 インチ、18G 小型丸鋸（歯数 90）

18 インチ、16G 横切小丸（歯数 90）

未だ入門したばかりで、目立技術の何者たるやを判ずることすら困難な現状ではあるが、
普通工場に入って初めから習得するには五年或は十年と云う長年月を要するとされている
この部門で、僅か六ヶ月間の勉強で凡その基礎をおぼえ、以後真剣のやれば、二、三年で
充分前者程度にはなれるといわれている。「静岡県目立技術者養成所」に入所がかない、そ
の教務内容と空気だけでも味い得たことは、今後の勉強、研究にまことに有意義であった
ように思われる。

尚この度の遊学に際し、種々御便宜、御援助を賜った農林省林業試験場斎藤部長、林野
庁原普及び課長並びに杉下技官、そして入所以来お世話下さった静岡県林務部長をはじめ
養成所の各位に深甚な感謝の詞を申し上げ、更に今後一層の御指導御鞭撻あらんことを切
に希う次第である。
(指導所研究部)